

【管内の感染症の発生状況等について】

- 管内の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の定点当たり報告数は概ね横ばいであり、41週では2.82でした（管内の定点当たり報告数は別表グラフを併せてご覧ください。）。
- 県内のインフルエンザ定点当たり報告数は41週に1.23となり、**流行開始の目安となる1.00を超え、流行入りしました。**
- **マイコプラズマ肺炎が流行しています。基幹定点医療機関当たりの報告数は、現行の調査手法となった平成11（1999）年以降最も多い状況となっています。**マイコプラズマ肺炎では、発熱や全身の倦怠感、頭痛、咳などの症状があります。咳は少し遅れて始まることもあり、熱が下がった後も長期（3～4週間）にわたって続くことが特徴です。普段から流水と石けんによる手洗いを、咳の症状がある場合にはマスクを着用するなど咳エチケットを守ることを心がけましょう。

★マイコプラズマ肺炎の報告数が増加しています（茨城県感染症情報センター）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/kikaku/mycoplasma.html>

- 管内の感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、県内の値を上回っており、増加傾向にあります。感染性胃腸炎の原因の一つ、ノロウイルスは、空気が乾燥する冬の時期に流行がみられるため、これからの時期には特に対策が必要です。ウイルスや細菌の中には、アルコールで消毒ができないものがあり、ノロウイルスはこれに該当するため、消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使用することが有効です。また、帰宅後やトイレの後、食事の前の手洗いをを行うことや、トイレ清掃や下痢・嘔吐物処理などをする場合に、使い捨ての手袋・エプロン・マスクを着用することを心がけましょう。

★ノロウイルスに注意（茨城県保健医療部）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/other/documents/noro-leaf.pdf>

○ 主な感染症の定点当たり報告数

報告週	COVID-19		インフルエンザ		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		手足口病		マイコプラズマ肺炎	
	管内	茨城県	管内	茨城県	管内	茨城県	管内	茨城県	管内	茨城県	管内	茨城県
38週 (9/16~9/22)	3.64	6.66	0	0.43	1.43	4.25	2.00	1.93	1.29	5.37	2.00	2.69
39週 (9/23~9/29)	3.18	5.69	0.09	0.62	1.29	2.93	2.71	1.97	4.14	6.72	2.00	2.77
40週 (9/30~10/6)	2.64	5.47	0.09	0.83	0.71	2.99	4.71	2.41	5.00	7.17	1.00	2.92
41週 (10/7~10/13)	2.82	3.94	0.18	1.23	1.57	3.55	4.00	2.13	7.57	9.41	1.00	3.54

○ 全数把握感染症の発生届（管内）

報告週	二類感染症	三类感染症	四類感染症	五類感染症
38週 (9/16~9/22)		腸管出血性大腸菌感染症		CRE 破傷風
39週 (9/23~9/29)			レジオネラ症	梅毒
40週 (9/30~10/6)	結核	腸管出血性大腸菌感染症		
41週 (10/7~10/13)				

★茨城県感染症流行情報週報（2024年第41週）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/weekly/documents/2024idwr41.pdf>

★茨城県感染症流行情報月報（2024年9月号）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/std/documents/2024mrp09.pdf>

★茨城県衛生研究所における病原体検出情報（2024年9月号）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/microbe/documents/202409kensyutu.pdf>

★茨城県インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の措置について（第6報）

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/influenza/documents/2024_25flu06.pdf

★インフルエンザ流行情報について（第1報）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/influenza/documents/2024sflureport01.pdf>

★2024年腸管出血性大腸菌感染症発生状況

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/sokuho/03_tyoukanh.html

【侵襲性髄膜炎菌感染症について】

- 県内で、今年2例目の侵襲性髄膜炎菌感染症の届出がありました。侵襲性髄膜炎菌感染症とは、髄膜炎菌による侵襲性感染症であり、髄膜炎菌が髄液または血液など無菌部位から検出される感染症です。感染経路は、飛沫・接触感染であり、特に同居生活や、大人数が集まる場所での活動、飲み物の回し飲み、食器の共用などの濃厚な接触が感染伝播のリスクとなります。医療機関におかれましては、感染が疑われる事例については、速やかに保健所への情報提供を行っていただくようお願いいたします。

★侵襲性髄膜炎菌感染症（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00002.html

【ルワンダ共和国におけるマールブルグ病の発生について】

- 令和6（2024）年9月27日、ルワンダ共和国においてマールブルグ病（一類感染症）の発生が確認されました。同年10月2日時点、36名の確定症例が確認されています（うち11名は死亡例）。これまでにアフリカでは複数の国において散発的にマールブルグ病の発生が確認されていましたが、ルワンダ共和国では初めての発生確認となりました。ルワンダに滞在した方で疑わしい症状が出現した場合には、早めに医療機関への受診をお願いいたします。医療機関におかれましては、当該地域への渡航歴のある患者を診察する際には、マールブルグ病を意識した診療を行っていただくとともに、疑わしい患者を診察した場合は、直ちに保健所へ報告いただくようお願いいたします。

★ルワンダ共和国におけるマールブルグ病に係る注意喚起について（厚生労働省検疫所FORTH）・・・症状や感染経路が記載されています。

https://www.forth.go.jp/news/20241004_00001.html

【デング熱の国内感染が疑われる事例について】

- 今般、台湾の衛生担当部局から、台湾で今年9月に確認されたデング熱感染症例について日本滞在中にデング熱に感染したと考えられる旨の報道発表がありました。現在のところ、関係自治体の蚊媒介のサーベイランスにおいてデングウイルスは検知されておりませんが、外国人訪問者・海外渡航者の増加もあることから、蚊媒介感染症について注意が必要です。茨城県内における今年のデング熱の報告数は、41週時点で4件となっております。

★事務連絡「デング熱の国内感染が疑われる症例の発生について」（厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課）

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/tuuchi/documents/jimurenraku_20241007.pdf

★茨城県における蚊のモニタリング調査について（茨城県感染症情報センター）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/information/19-mosquito.html>

【茨城県における梅毒の発生動向について】

- 茨城県感染症情報センターでは、近年の梅毒報告数の増加を受け、梅毒症例の動向について2024年度から四半期ごとに情報をまとめ掲載しています。2024年第3四半期分の情報が更新されましたので、ご覧ください。

★感染症発生動向調査により届け出られた茨城県における梅毒の概要（2024年第3四半期）（茨城県感染症情報センター）

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/syphilis/documents/syphilis_2024-3.pdf